



荻川小だより

〒956-0011 新潟市秋葉区車場 922-1

電話 : 0250-25-2171 FAX : 0250-25-2172

<http://www.ogikawa.city-niigata.ed.jp/>

令和7年6月6日発行

大切なのは『雰囲気』と『勇気』

教頭 菅原 知昭

知識や学びを広げていくために欠かせない『わからないことを聞く』ことができるようになるには、大切なことが2つあると私は考えています。

(1) わからないことを聞きやすい周囲の雰囲気

(2) わからないことを聞く本人の勇気

このような考えに私が至った2つの出来事をご紹介します。

【1つ目】

A「ねえ、この問題わかんねん（わからないの）だけど。」

B「え〜っ、こんなんもわかんないの？」

何とも気まずい空気が流れました。それを感じたBは真剣にAに謝り、お互いの気持ちを確かめ合った後、学習を再び進めました。

これは私が予備校生だったころにあった出来事です。30年以上前の出来事です、今でもしっかりと記憶に残っています。残念な受け止めをしてしまったBが私でした。

【2つ目】

教職に就いてから、実は私自身がわからないことを表現することが得意ではなく、知ったような顔をしてしまうことが結構あることに気づきました。聞けばどうということはないのに、わからないことがあるのは、みっともないことと感じていたのかもしれませんが。そのような自分自身に気づいてから、わからないことがあると「実はよくわからなかったから教えてもらっていいですか？」と同僚や先輩に聞くことを少しずつ増やしていきました。「これってどうするとできんの？教えて！」子どもたちに聞くこともありました。これは今も変わりません。私が学級担任をしていた時は、有名なことわざ「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」をよく紹介するようにして、子どもに、また自分にも言い聞かせていました。

どちらも大切ですが、私は(1)を優先していました。『この人は、私がわからないことを聞いても真剣に受け止めてくれる、こんなことを聞いてもバカにしないだろう。』『この人は、私がわからないことを聞いた時、怒らない、一緒になって考えてくれる。』子どもたちがこのような気持ちになることが、(2)を引き出すと考えているからです。

(1)を大切にしていくなために私たち大人ができることは、わからなさや困り感を抱えて私たちに聞いてくる子どもの声を大切に受け止め、一緒になって考えていくことなのかもしれません。運動会が終わり、学習が本格化していきます。『聞きやすい雰囲気』と『聞いてみる勇気』を大切にしながら、子どもたちとあたたかなかわりをしていきたいと考えています。